

# 令和6年度第1回庄原市初任者研修会

令和6年5月13日（月） 庄原市役所

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭5名、中学校教諭4名、養護教諭1名、主事1名】

## 【講話】「子供たちの成長にやりがいと喜びを！」

庄原市教育委員会 教育長 牧原 明人

- 庄原の実態をもとに、子供たちが庄原で学びたいと思えるために必要なことについて講話を行った。
- 庄原には美しい四季や温かく助け合う人々、素直にまっすぐ一生懸命伸びようとする子供の姿がある。
  - 指導力＝専門性×人間性＋教養である。教職員として「学び続ける姿勢」を大切にしてほしい。
  - 良き出会い、良き人間関係、そして保護者、地域、学校が一緒になって取り組むことが、「学んで良かった」をさらに一歩前進させ、「庄原で学びたい」と思える教育につながる。

(参加者の振り返りより)

- 子供たちの夢や目標を叶えるためには、まずは教職員自身が目標を持ち、自ら考え学ぶ必要があると思いました。
- 庄原の魅力を生かした教育のために、まず自分自身が庄原についてもっと知る必要があると感じました。
- 庄原出身だったが、本講座で、庄原の教育の魅力や、教育者としての視点で見ると庄原からたくさんの学びがありました。



## 【講話】「特別な支援を必要とする児童生徒の指導の在り方について」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 延近 恵

- 特別支援教育の理念をもとに、今求められる支援や指導の在り方について講話を行った。
- 特別な支援を必要とする児童生徒の割合は増えている。教育的ニーズを的確に把握し、生活上や学習上の困難を改善・克服するように、一人一人に合った適切な指導や必要な支援を考えていく必要がある。
  - 具体的な事例をもとに、子供がどうしてこのような行動をとるのか、どのような手立てや支援が考えられるのか、合理的配慮や具体的な支援について協議し、考えを深めることができた。



(参加者の振り返りより)

- 教職員が指導に悩んでいる子供は、それ以上に本人が悩み苦しんでいることが分かりました。その生徒の表面上に現れる言動そのものだけでなく、「なぜそうなるのか」を考え、対話することで子供と一緒に考えていく必要があると感じました。

## 【講話・演習】「社会人としての姿勢について」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 末田 和也

- 社会人としての姿勢について、講話・演習を行った。
- 接遇は、思いやりや誠意をもって、相手の立場に立って物事を考えることが大切である。
  - 報告・連絡・相談を使い分けて、職場内でコミュニケーションをとっていくことも社会人として必要な力であること。

(参加者の振り返りより)

- 自分一人で抱え込まず、何かあったらすぐ報告、相談をすることが生徒のためにもなると学びました。
- 対応の言葉だけでなく話し方、寄り添い方も大切と分かりました。

